

## 随 想



### 北陸の大雪に想う

橋 浦 彦 三\*

1960年も鉄鋼界の繁忙と興隆の中に暮れて新しい年を迎えました。今年は貿易自由化の問題、米国のドル防衛問題、更には欧州共同市場問題等々、わが国鉄鋼界にとって容易ならぬ波が押し寄せて参りますが、何をおし破つても世界に雄飛する日本鉄鋼界を打立てる覚悟で進みたいと存じます。

本誌に執筆の機会を与えられたのを幸い少しばかり我田引水的なことを申し述べてみたいと思いません。

昨年も押し迫つてから北陸方面には終戦後初めての、即ち十何年振りの大雪が襲つて、国鉄はラッセル車を大わらわに駆動させてもラッセル車自身が脱線したり埋もつて上下線とも不通となり、中には客を乗せたまま三日間も進行不能という大事さえ引起しております。年末年始に当つて物資輸送に大きな障害を与えたことは申すまでもありません。自動車交通も勿論完全停止で2、3キロの輸送にさえも大困難を来たすという、一時は交通機関未発達の昔に還つたような気さえました。「北陸は遂に孤立す」とNHKが放送しましたが、まさに真実の表現であると思えます。無線関係は別として幸いにも電信電話にはそれ程の支障もなくせめてものことでした。通信関係では今までこれ程の大雪ではなくとも少々降つただけでたちまち故障続出して用をなさなくなつたことが往々ありましたので、この苦杯にこりて相当の手配がなされてあつたのでしよう。前もつて準備がなされておれば災害を最少限度に食い止めるか、全く事故から守ることができるということを示した一例であると思えます。陸上交通は通信関係と多少は異るところはありましよう。それは認めるとしても、だからといつて手をこまぬいていいものでは絶対ありません。今回の大雪に際しての国鉄の処置にはいろいろ批判も出ております。三日も降り続くような大雪が十年以上もなかつたことによる油断のあつたことは否まれません、それが仮りに万善を尽したとしても混乱の程度が大きく減少したとは考えられません。これは北陸線が単線であるからです。せめて複線であつたならこれ程の混乱を起こさずに解決できたであろうとつくづく感じます。次に自動車交通に目を移して見ましよう。これも鉄道と同様、長い間の安逸に馴れて除雪能力に大きな不足を来たした事が混乱の原因でしよう。降雪が広範囲にわたれば人海戦術ではどうにもなりません。やはりブルドーザやグレーダーなどの機械力に依らなければならないのです。それらの動員に欠ける場所のあつた事は認められますが、それだけではどうにもならない問題であります。道路の狭いことと舗装のできている道路の少ないことが混乱の最大の原因であります。北陸に雪の多いことは宿命で

\* 本会北陸支部長、不二越鋼材工業株式会社常務取締役

はありますが、然しこの雪があるために高い落差を利用して水力発電ができています。しかも夏期渇水期を極少限にとどめて、北陸電力、関西電力、各地県営発電及び自家発電を併せて最大 200万 kW の発電をしており、現在工事中のもの及び近く開発を考えられているものを予想すれば 400万 kW に達すると考えられます。

また、工業に必要な工業用水は同じ雪をもとにして年間変わりなく無尽蔵に得ることができます。これが北陸地方の特徴と言えましょう。雪こそ北陸の宝です。

反面この雪が陸上交通に大きな支障を与えることは先に述べたとおりであります。然しこれ位の障害は人智、人工をもつて取払うのでなければ進歩した人間とは言えないのではないのでしょうか。

とりあえず幹線鉄道は複線にし（北陸線が未だ単線かと聞いて人が驚く位おくられている）主国道並びにおもな工業道路を整備することによつて大きく雪害から防ぐことができるのです。これに配するに鉄道にはラッセル車などの強力除雪車、道路にはブルドーザーなどの機械力を充分準備することができれば雪による交通障害は単時間で解消することができましよう。10年に1回位襲う大雪も万善の準備をすれば恐るるに足らず、ましてや例年の程度の積雪などは物の数でもないと思います。

さて、日本の工業地は北九州を除いて総て太平洋岸に集中しております。いろいろ立地条件がすぐれているからでありましようが、いずれは土地の狭さを感じ、労働力の不足に困却し、その他もろもろのことで行きづまってくることはなりませんまいか。仮りに行きづまりなどと極端なことを言わなくても次の適地に向つて分散することを考えてもいいのではないのでしょうか。工業に対する何がしかの適地性があればその他の不利不便は交通でおぎなうことができると思います。北陸方面は前述のとおり電力と工業用水には他の如何なる土地にも負けるものではありません。石炭はありませんが石油はどこからでも持つてこられます。将来日本海対岸貿易が普通になれば油だつて海の向こうから簡単に入つて来ると思います。工場用地はありあまる程あります。海を埋立て国土を増しながら工場を作るのも意義はありますが、先ず今ある土地から使つて行くことも充分考えられていいと思います。

日本の工業は適地適地に分散させるべきであると思います。北陸は雪が多いからとすることを問題にしてはいけません。重ねて申しますが雪の障害は鉄道を複線にすることと道路整備によつて克服できることなのです。

こうした開発にはもつともつと大きな目で見ること、そしてその為に必要な経費を投ずることを考えるのが政治の一つの行く道ではないのでしょうか。

鉄鋼の生産力の半分は電力が受けもつているはずですが、北陸に今すぐ溶鉱炉の設置までは考えられないが（然しこれも絶対とは言い切れない）電気製鉄、合金鉄、特殊鋼の生産は今日でも相当なものであり、なお一層の発展を期したく、附随して機械工業の興隆を考えるべきだと思います。

雪の恩恵を極度に利用し、雪の障害は人智をもつて克服し、北陸を日本の工業地帯として大きく利用するという考え方は必ずしも我田引水とは思いません。

会員の皆さんの御意見をもお伺いしたいと存じます。